

阿智村教育委員会 令和元年5月定例会会議録

- 会議日時 令和元年5月16日(木) 午後1時30分
- 会議場所 阿智村保健センター 会議室
- 出席者 教育長：黒柳紀春 教育長職務代理：塚田紀昭
委員：原彰彦 委員：熊谷 歩 委員：熊谷恒雄
【事務局】
教育次長：熊谷修一（全体進行） 学校教育係：村田浩一
公民館兼社会教育係長：川上悟 子育て支援室長：島岡佐喜子
学校教育専門主事：羽生武彦、佐々木豊
児童家庭相談主事：佐々木栄子
（欠席者 保育園長：原 満 学校給食係長：石原哲成）

1 教育長あいさつ

- 滋賀県大津市の保育園児交通事故に係る村教委の対応について
村教委として保育園及び小中学校に対し登下校時における指導事項の確認を指示。併せて徒歩で引率する行事等の実態調査を依頼した。
- 西部地区教員研修会について
中学校の英語授業を参観したが、教科担任が個別の生徒に合わせ過ぎていると感じた。高みに引き上げる意識を大切にしなければならない。第三小学校の外国語活動と英語の授業DVDを作成した。村内小中学校に配布するが、中学校の先生方に小学校の学習内容を理解していただきたい。
英検補助事業第1回は20名が受検する。小学校のPTA懇談会でも英検補助は好評であった。英検は授業の学びの延長線上にあり、成果として実績があるよう努めたい。
- 教育支援センター（中間教室）の設置に向けて
松川町と高森町、飯田市と視察を2回実施した。設置要綱を整備し2学期には暫定的に開設したい。
- 特別支援教育支援員連絡会議について
村内小中学校配置の支援員8名が一堂に会する初めての連絡会議を開催した。今まで学校単独で活動していただいていたが、支援員同士の情報交換や交流の場となりとても有意義な会議となった。
- 阿智中クラブの廃止について
部活動の延長としての現阿智中クラブを廃止し、「チャレンジゆうA c h i」を運営母体とする新クラブ体制について、関係団体による検討が始まった。

今後は、保護者会を中心に説明会を行い外部指導者・世話役の配置、保護者会との関係、運営費等の諸課題について話し合っていく必要がある。

(原委員)

中学校英語の授業だが、保育園から小学校のつながり、小学校から中学校へのつながりについては、私も教育長の考えに賛成である。小学校1年生を受け持った時保育園を見学に行った。保育園でかなり指導が入っているのが理解できたので無駄を省いて授業や学級運営を進めたところ、保護者からやり過ぎだとの声が出た。しかし、子どもたちがついてきたのでそのまま続けた経験がある。問題は小学校の先生が保育園を見に行かない、中学校の先生が小学校の実態を見に行かない、その部分を埋め、継続性を理解した授業を行う必要がある。

(塚田委員)

西部教委の資料、このような形にすることは非常に良い。校長以下先生方は県教委を向いている者が七割、村教委には二、三割しか向いていない。村教委の取り組みを軽んじていることはないと思うが、意識は向こうの方にあるように感じている。村教委の奉仕をしっかりと位置づけていくことは大事なことだと思う。保育園の園外の活動に関してだが、小学校の下校指導について先生方は一切やってはいけないといったことがある。

(佐々木学校教育専門主事)

前任校では四月は1年生が早めに帰る。その時期は下校指導を行う。日数にすると第2週までは一緒について行っている。道のわたり方等の指導をしながら見送っていた。

(塚田委員)

何かあった時、先生はその責任をとらなければならない。校長や県教委も責任をとらない。引率した先生の責任になる。下校指導が教員の業務かどうか難しいところ。現場の先生や校長先生は県教委の意向が頭の中のほとんどを占めているのではないか。

(羽生学校教育専門主事)

ここ数年の傾向としては、学校は市町村教委の教育方針を非常に大事にする風潮になっている。かつてはそうでない時期があった。

(原委員)

阿智中クラブの廃止について、「チャレンジゆう achi」ができた時にこれを目指してある形ができ出したが、講師の選択が問題を起こしてきた。講師が自分勝手なことをしたので、講師を持つ時には条件を付けた。保護者と学校側と指導体制が満足する形で進めてもらいたい。中学校の負担を減らすことは良いことであるが、デメリットも考慮しながら進めていただければありがたい。

(教育長)

「チャレンジゆう achi」がある意味独立性を保っているため、教育委員会も一線ひいている面がある。チャレンジ事務局でも、この状態でこれからの活動がうまくできるか不安だと言っている。もう少し教育委員会とリンクしていか

ないと全体をまとめていくことは難しい。今後の課題だと考えている。

(塚田委員)

従来阿智村の行政が公民館の独立性をかなり強く位置づけてきた経過がある。

2 協議事項

(1) 阿智村文化財保護事業補助金交付要綱（案）について

- ・公民館係長の説明

(原委員)

交付について具体的に説明してほしい。

(教育次長)

1,000万円の工事の時、県等の補助がない場合は1/2ということなので村の補助は500万円ですが、補助の上限が200万円なので200万円しか交付されません。800万円は自己負担となります。

(教育長)

今回の場合は、安布知神社の拝殿天井絵の修復に400万円かかる中で、県から半額の200万円が補助されますので、残りの200万円に対して1/2の100万円を村が補助します。

(塚田委員)

安布知神社の工事内容は何か。

(教育長)

天井絵の表面に膠等の樹脂を塗ってこれ以上劣化しないようにする作業。

- ・承認

(2) 阿智村保育所設置条例の一部を改正する条例（案）について

- ・教育次長の説明

承認

(3) 学校運営協議会委員の任命について

- ・学校教育専門主事の説明

(原委員)

清内路小の委員数が多いが、説明のとおりやってきたということですね。

- ・承認

(4) 6月補正予算について

- ・教育次長の説明

(原委員)

どうして空調設備の補助金が落とされたのか。

(教育次長)

文科省の補助金枠が決まっているので、申請が多く上がり重点箇所から配分されたため。県ではエアコン申請が53団体あったがすべて落とされた。

- ・承認

(5) 外国語活動・英語年間計画（案）について

・学校教育専門主事の説明

(塚田委員)

英検は大学入試の材料になるが、県の高校入試では活用があるのか。

(佐々木学校教育専門主事)

21年度から高校入試が変わり、スピーキングテストが入るかもしれない。

(羽生学校教育専門主事)

福井県の英検取得率が高い。2018年から高校入試に加点をしている。2級15点、準2級10点、3級5点だったが19年から5点の加点に縮小している。県教委が主催し中学3年生対象に県内8カ所で英検の研修会を行うなどきめ細かな対応をしている。県ぐるみで取り組みをしている。長野県は教員採用試験について英語の免許をもっている受検者を優遇する方向を打ち出している。

(原委員)

民間の検定や資格を導入することに懸念がある。

(塚田委員)

DVD作成の対象に第三小学校を選んだ理由は。

(佐々木学校教育専門主事)

各校にとって非常に参考なる授業内容だったため。

(塚田委員)

各学校で英語しか話せない教室を用意する。いかに英語に多く触れる機会を増やすかということだから、そんなことを考えてみてはどうか。

(佐々木学校教育専門主事)

空き教室があれば可能ということだが、第一小学校で計画をしている。

(原委員)

DVDは学校の先生たちしか見られない。村のケーブルテレビで流すことを検討してほしい。

(教育長)

個人情報的に問題がないか調べて検討してまいりたい。

(熊谷恒雄委員)

英語が何故必要かということをもう少し考えないと。

(熊谷歩委員)

今の子どもたちが羨ましい。小中学生だけでなく、大人まで英検を受けられる村になったらよいと思う。

(6) 小規模校学校課題研究委員会研究計画(案)について

・羽生学校教育専門主事の説明

(原委員)

ICTだけでなく、直接触れ合う面での学校間交流も必要だ。

(7) ふるさと学習カリキュラム作成委員会研究計画(案)について

・羽生学校教育支援主事の説明

(原委員)

指導書ができるとそれだけやっていけばいいという形になる。自由度も担保してほしい。

(羽生学校教育専門主事)

かなりの部分が事例集。事例を通して授業の作り方と題材の価値の見出し方を学んでいただく。この題材を扱えという発想はない。

(8) 若駒アカデミー実施計画(案)について

- ・羽生学校教育支援主事の説明

(塚田委員)

中学3年生はほとんど全員が参加しているか。

(羽生学校教育専門主事)

強制はしていないがほぼ全員参加している。

(9) 後援申請について

- ① 南信州お仕事キッズタウン(南信州青少年育成プロジェクト)
- ② 情熱の扉コンサート(樽沢和子)

- ・2件ともに承認

(10) その他

3 報告・連絡事項

(1) 各係からの報告

- ・海外研修事業について(社会教育係)

応募者2名のため7月実施は断念した。現在アンケート調査実施中である。

(2) 6月定例教育委員会の開催日について

20日(木)午後1時30分開催

(3) その他

- ・飯伊市町村教育委員会連絡協議会総会について
- ・西部地区教育委員会連絡協議会総会について
- ・三遠南信教育サミットについて

(閉会 午後3時10分)

教育委員 署名・捺印